１００号　令和６年３月１５日

＜学校教育目標＞　自ら伸びる　ともに伸びる

校長だより

呉市立市阿賀小学校
安宗　誠

卒業式　式辞

式　辞

穏やかな日差しに瀬戸内の水面も柔らかく輝く今日のよき日に、呉市教育委員会教育長　寺本有伸様、呉市議会議員　亀井聡美（かめい　さとみ）様、坂井誠臣（さかい　まさおみ）様をはじめ、大勢のご来賓の皆様のご臨席を賜りますとともに、保護者の皆様のご列席をいただき、ここに令和５年度呉市立阿賀小学校第１４６回卒業証書授与式をかくも盛大に行うことができますことを心からお礼申し上げます。卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。そして、保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。

今日の良き日、人生の節目の今をどう捉え、これからどう生きるべきなのか、卒業生の皆さんとともに考えてみたいと思います。
まず、自分のこの命。一体、どのようにして引き継がれたものなのでしょうか。２代前はおじい様おばあ様。３代前はひいおじい様ひいおばあ様。さらに、仮に、２０代前までさかのぼると、ご先祖様は合わせて２００万人にもなるそうです。数え切れないご先祖様の命のバトンを引き継いで、今、自分の命がここにある。そうと思うと、本当に不思議です。

次に、外の世界に目を向けてみましょう。いまだ続くウクライナ侵攻による死者は５０万人を越えました。このような戦争は残念ながら他にも世界のいたるところで起こっていて、今、まさにこの瞬間にも尊い命が犠牲になっているかもしれないのです。１月１日に突然能登半島を襲った大地震で２００人を越える方々が亡くなり、１万人を超える方々が２か月以上経った今も不便な避難生活を送っておられます。
もっと言えば、世界の人口が約八十億人。そのうち、毎日の食べ物に困っている方々が９億人。安全な飲み水を受けられない方々が２２億人。コロナによって亡くなられた方々はこれまでに７００万人。国内でも７万人。事故やご病気、寿命も含め、いろんな理由を全部合わせると、毎日亡くなっている方々は、世界中で約２０万人、国内だけでも約４千人という計算になります。こんな現実がある中で自分の命がここにあることは決して当たり前とは言えないのではないでしょうか。

再び、自分自身のことを振り返ってみましょう。皆さんが誕生したあのとき、心の底から喜んでくれた人がいます。皆さんが赤ちゃんのとき、毎日やさしく抱いてお風呂に入れてくれた人がいます。皆さんのおむつをずっと換え続けてくれた人がいます。病気のときは、徹夜で看病してくれた人がいます。あなたが悲しいときには自分のことのように心を痛め、あなたがうれしいときには自分のことのように喜んでくれた人がいます。あなたがもっている可能性を最大限伸ばそうとしてくれた人がいます。あなたのよさを理解し、認めてくれた人がいます。あなたがまちがったことをしたとき、あなたのことを思い、本気で叱ってくれた人がいます。こうしたたくさんのまわりの人の支えがありました。お陰様でここまで生きることができました。

このように、数え切れない命を過去から引き継ぎ、多くの支えをいただいて、生き延び、確かに、今、ここに生かしていただいている自分の命。そう考えると、この命を大切に、大切に生き抜かなければなりませんね。
では、そのために絶対に欠かせないものは何でしょうか？
それは「感謝（かんしゃ）」です。「感謝」の「感」は、「感じる」。何を感じることでしょうか？「ありがとう」を「感じる」ことです。「感謝」の「謝」は「言（ごんべん）」に「射る」。「発射」の「射（しゃ）」ですね。つまり、「言葉を発する」ことです。ということは、「感謝」とは、「ありがとう」を感じて、それを心から言葉に表せることだと言えそうです。
例えば、皆さんが、朝の見守りの方に、「私たちの命を見守ってくださってありがとう」と感じ、「おはようございます。いつもありがとうございます。」と表せていること。そのことなのです。
もう１つ、別の例でいっしょに考えてみましょう。例えば、毎日いただいてきた給食ですが、どれだけの「ありがとう」なのでしょうか？おかずの野菜だけに限っても・・・、何よりもまずは野菜の命をいただくということ。そして、野菜が育つ天候・環境に恵まれたということ。野菜作りに専念できる平和な世の中であるということ。農家の方。運輸業の方。仲買の方。お店の方。給食献立を考えてくださる方。調理をしてくださる方。お金を支払ってくださる方。安く食べられるよう、補助金を付けてくださる方。そのもととなる税金を納めてくださる方・・・。まだまだ他にもたくさんのおかげさまがあるはずです。このように、たくさんの「ありがとう」に敏感に気付いたり、感じたりすることができる人であればあるほど、「いただきます」「ごちそうさま」の言葉に、自然と気持ちがこもるのだと思います。そして、自分の命を、さらには、まわりの命をも大切にしながら、心豊かな人生を送っていけるのだと思います。

そんな人でずっといられるように、みなさんは、この阿賀小学校で、家庭で、阿賀の地域の中で、さらには外の世界で、「感謝」を育んできました。皆さんのその「感謝の心」は、確実に後輩たちにも受け継がれ、ますます阿賀小学校は温かい学校になっていくでしょう。そして、次の時代を担うあなたたちによって、阿賀のまちもますます温かいまちになっていくことでしょう。
そういう皆さんですから、職員一同、自信をもって中学校に送り出します。これまで、約４千日を生き抜いた皆さんが、これから百歳まで生きるとして、残り３万日あまり。数々の困難にぶち当たることは覚悟しなければなりません。しかし、「感謝の心」さえあれば、どんな困難もプラスに変えていけるはずです。苦しみが喜びに変わるはずです。そこに「幸せ」を実感するはずです。「感謝の心」を持ち続けたその先にある「幸せ」を卒業生全員がつかめるよう、心から祈り続けております。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。お子様の立派に成長されたお姿を目の当たりにし、改めて保護者の皆様方がお子様に注いでこられた深い愛情と学校へのご理解・ご協力に、敬意と感謝の念でいっぱいでございます。これからも、引き続き深い愛情で、お子様をさらなる成長へと導いていただきますよう、心よりお願い申し上げます。また、ご来賓、地域の皆様方におかれましては、これまで、いつも変わらず学校や子どもたちのことを温かく、見守り、支えていただき、誠にありがとうございます。これからも引き続きどうぞよろしくお願い致します。
最後に、重ねて、卒業生の皆さんのさらなる成長と末永い幸せを心よりお祈りし、式辞と致します。

令和６年　３月１６日

呉市立阿賀小学校長　安宗　誠